

## 中学生の「税についての作文」

大木町長賞

### 「遠くにあるようで。」

大木町立大木中学校

三年 野 中 智 哉

「所得税」 ああ、自分で稼いだお金にかかる税金ね。「住民税」その土地に住む人が払う税金、そんな単純ではないみたいだ。「特別法人事業税」そもそも聞いたこともない。僕は、税金について、知らなすぎる！！

「税金」とは、「国や地方公共団体が、社会秩序の維持、私たちの安全、健康及び福祉の保持、公共施設の設備、教育の振興等いろいろな仕事をするために私たちが負担している経費」であると、僕が知ったのは、消費税の引き上げの報道があったとき。それまで八%だった消費税が十%に引き上げられた。税金について無知な僕でも消費税が僕達、未成年にも関係していることは知っていた。僕は自分の好きな漫画や文房具を買うために、普段から自分で買っている。増税によって、今まで百八円だった、消しゴムが百十円になっても、僕は二円の差なんて気にせずに買っていた。そこでふと思ったのだが、今、自分は「文房具」という安価な商品だから、二円の差なんて気にせず買ったが、もっと高価な商品の場合、たった二%が大きな差になるだろうと思った。果たして、人々は今まで通り商品を買っているのか、気になって

調べてみた。やはり、増税後二週間は国民の消費率は落ち込み気味だったが、徐々に回復し、増税前の水準にまで戻ったのだ。こうなると、消費税増税のメリットが何なのか気になる。たくさんあったメリットの中で僕が最も、なるほど、と思ったのが、「社会保障が安定する」ことだ。「社会保障財源」のために増税が必要なのは理解できる。しかし、なぜ「消費税」なのか。それは、消費税とは、買い物に課された税のことであり、買い物は不景気でも、必ず実施されるため税収が安定するからだ。さらに、消費税は買い物をした「その場」で徴収されるため、「脱税されにくい」のである。これには納得させられた。僕はここまで自分で調べて、やっと税のほんの一部の仕組みについて理解できたのだ。よく考えてみると、僕たち学生の身の回りには税があふれている。校舎の建築費、机・椅子などの備品、電気代、水道代、教科分の教科書、それらは、毎日お仕事を、懸命に働く人たちの頑張りによるものなのだ。僕たちは、学生。僕たちにできることは何なのか。それは、今しかない学生生活を楽しみ、勉学に励み、「学べる」ことに対して、感謝をすることだ。

六年後は僕も、納税者。たくさんの人たちに支えられて、僕らはいら。いつか立派な大人になり、その恩に報いることができるような人生を歩みたい。遠くにあるようで、実はもっと身近な税。僕たちはその存在によって助けられている。